

2025 年 11 月 2 日午前 10 時 30 分
聖霊降臨節第 22 主日 主日礼拝 (召天者記念礼拝)
司会 徳島恵子
奏楽 徳江由利

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)
前 奏
招きのことば 第 1 コリント 3:6-7
讃美歌 228(1-2)「輝く日をあおぐとき」 一 同
交読詩編 84:1-13(P.97/93)

祈 り 司会者
《関東教区お祈りカレンダー》
神の愛キリスト伝道所 常陸大宮伝道所 守谷伝道所
(主の祈り)

讃美歌 385「花彩る春を」 一 同

聖 書 新約:フィリピ 3:18-4:1 (P.365)

メッセージ『天にひとりを増しぬ』
祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 228(3-5)「み神は世びとを愛し」 一 同

献 金 一 同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(使徒信條・口誦) 一 同

頌 栄 27
祝 祷 川上 盾 牧師
後 奏
報告・紹介

<招きのことば> 第 1 コリント 3: 6-7
わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、
成長させてくださったのは神です。ですから、
大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、
成長させてくださる神です。

《11 月礼拝当番》 徳島恵子 深町 穰
長嶋美智子 伊藤愛子
橋本洋子 井上ティナ

《今週の集会・行事》
◎本日 13:15 墓前礼拝(嶺公園教会墓地)
12:15 教会出発 12:45 墓地清掃
◎ 本日墓前礼拝終了後 11 月定例役員会
◎ 5 日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈禱会
◎ 8 日(土) 9:30 会堂清掃 E 組

《次週の主日》
◎ CS朝礼拝 9:15
◎主日礼拝 10:30
メッセージ『今を生きる信仰』
聖書:旧約:創世記 15:1-6 (P.19)
新約:マルコ 12:18-27 (P.87)
讃美歌 227, 184, 357, 24
交読詩編 105:1-11(P.119/115)
司会:手塚福治 奏楽:川名ひさ子

《予 告》
◎ 紅雲町集会 13 日(木)10:30 於・教会
◎ 婦人会例会 20 日(木)10:30 於・教会訪問
◎ CS合同収穫感謝礼拝 23 日(日)10:30
◎ 群馬地区大会 24 日(月)10:00 新島学園中高
◎ フェローシップの会 30 日(日)礼拝後

《報 告》
◎ 本日は召天者記念礼拝です
毎年 11 月第 1 主日に召天者の写真を並べて
礼拝を行ない、既に主のもとに召された方々
を覚えて追悼の祈りをささげます。昨年から
今年にかけての召天者は下記の通りです。
*坂本満子さん 24 年 12 月 1 日召天 90 歳
*岡安フクさん 25 年 4 月 1 日召天 84 歳
*長田利江さん 25 年 4 月 14 日召天 95 歳
礼拝後、昼食(おにぎり)を挟んで墓前礼拝となり
ます。篠原節子さん(伊藤愛子さんの伯母)の納骨
も併せて行われます。



◎ パイプオルガンコンサート(12/6 土 13:30)
演奏者の表見聖(おもみ・さとし)さんは神奈川/
三・一(さんいつ)教会の牧師で、スペインでオル
ガンの専攻をされた方です。代表的なオルガ
ン曲の他、クリスマスの時期にふさわしい選
曲も考えて下さいました。入場料 1,000 円、
ただし小学生以下は無料です。チラシが出来
ましたのでどうぞ宣伝にご協力下さい。

◎ 受洗・転入会について
今年のクリスマスに受洗・転入会を希望さ
れる方は、牧師までお申し出下さい。特に受
洗の方は準備が必要ですので、早めにお知ら
せ下さい。(11 月中)

《先週の集会》				
	礼拝堂	オンライン	献 金	
主 日 礼 拝	46	25	30,881	
	ジュニア	シニア	初・大人	計
C S 午後礼拝	2	3	14	19

《メッセージ》「一体となる他者」
創世記 2:4-25, マルコ 10:2-12(10 月 26 日)
▼教会で結婚式を希望する人に、事前レクチャーの
時を持つことにしている。結婚式の内容、結婚に関する
キリスト教の考え方等々。そこで必ず申し上げることは、
「結婚する相手は“他者”である」ということである。▼「そ
んなの当たり前ではないか」と思われるかも知れないが、
案外そうではない。結婚する相手に求めるもの、それは
結構自分の延長線のものが多いのではない。波長が
合う、考え方や趣味・好きなものが一緒、気が合う、わが
ままを聞いてくれる...そこでは相手が自分に合わせるこ
とが前提となっているのだ。▼同じ思いを求めるのが「ダ
メ」なのではない。しかしあまり自分の理想を強く求め過
ぎるのもよろしくないと思う。人はひとりひとり、みな違う
からだ。結婚とは自分に仕える召使いを雇うことではな
い。神が与えられたそれぞれの人格を尊重し合いながら、
共に成長するために結婚するのである。▼創世記のア
ダム創造物語では、「アダムが独りてゐるのはよくない。
ふさわしい『助ける者』を作ろう」ということでエバが作られ
た。「助ける者」とは、助手のような存在ではない。ヘブラ
イ語の「エーゼル」には神の助けを表す意味が含まれて
いる。▼人間とは独りでいようとして生かれない不完全な存
在である。その足りない部分を最も近いところで支え補う
パートナー、それが妻であり夫であるということだ。▼創
世記にもう一つ大切なことが記される。「こういふわけで、
男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」(2:24)。
父母を離れた独立した人格として、ということだ。父母や
○○家の付属物ではなく、保護の必要な存在でもなくて、
ひとつの人格を持った人間同士が共に生きるといふ営み。
「一体となる他者」、それが聖書の示す結婚の姿なのだ。
▼新約は離婚をめぐるイエスと律法学者との論争。「離
縁状を書いて妻を離縁することは律法に合っている
か?」という“ひっかけ問題”に対して、イエスは「神が合
わせられたものを人は離してはならない」と答えられた。
これは「離婚はしてはいけない」という答えなのか?▼モ
ーセの律法には「妻に恥ずべきことを見出した時には離
縁状を書いて離婚ができる」とある(申命記 24:1)。イエス
の時代には「恥ずべき事」の中に「料理でナベを焦がし
た」といったことも含まれていたという。そのような夫側の
身勝手な離婚に対してイエスは戒めとしてそのように語
られたのだろう。▼しかし結婚という現実の中で、神によ
って与えられたその人の人格が著しく損なわれるような
状況(DV、言葉、家族制度)が生じてしまった場合、イエ
スはやむを得ない決断として受け入れて下さるのではな
い。あのヨハネ 8 章に記された「姦通の女」エピソードの
ように...。▼それぞれの違いを認め合いながら、共に生
きる...それが夫婦の原点である。そしてそれは結婚する・
しないに関わらず、すべての人間に求められる「共に生
きる」ための作法なのだ。互いの違いを乗り越えられる賜
物、即ち「愛とユーモア」を大切に抱きながら。